

会議録（１）

会議の名称	第1回飯能市地域公共交通対策協議会
開催日時	平成24年10月 9日（火） 開会 13時30分 閉会 16時20分
開催場所	飯能市役所 本庁舎 5階 501会議室
会長氏名	飯能市長 沢辺 滯彦
座長氏名	吉田 樹
出席委員	沢辺 滯彦、吉田 樹、鈴木 弘之、関根 康洋、谷島 賢（代理：堀米 康史）、鶴岡 洋、松原 緑、鈴木 利雄、清水 潤次、馬場 才次郎、真野 綾子、村松 守夫、高山 和征、新井 貞市、中川 淳、倉掛 泰明、浅見 淳二、田中 雅夫
欠席委員	浅見 浩士
説明者の職氏名	飯能市市民生活部長 上 良二 飯能市市民生活部交通政策担当主幹 西島 正樹 飯能市市民生活部交通政策担当主査 佐藤 好則
傍聴者の数	7名
会議次第	別紙の通り
配布資料	別紙の通り
事務局職員職氏名	飯能市市民生活部長 上 良二 飯能市市民生活部交通政策担当主幹 西島 正樹 飯能市市民生活部交通政策担当主査 佐藤 好則

会議録（２）

議事録の概要（経過）・決定事項

（１）本協議会の第１回目の開催にあたり、事務局長から開会が宣せられたのち、以下の通り手続き等をした。

- ①委嘱上の交付：沢辺市長から各出席委員に委嘱状を授与した。
- ②会長挨拶：会長（沢辺市長）から開会に際し、挨拶をした。
- ③本協議会設立等に関する経緯の説明：事務局長から本協議会の設立に至った経緯、設立の趣旨及び目的等が説明した。
- ④協議会設置要綱の説明：事務局から本協議会の設置要綱各条について説明した。
- ⑤自己紹介：出席委員、事務局各自による自己紹介等をした。
- ⑥座長の指名：事務局長から本協議会の設置要綱に基づき、会長による座長の指名の要請をし、会長が吉田 樹委員を座長に指名し、吉田委員はこれを了承した。

（２）協議会の趣旨と今後の進め方について

協議会の目的及び協議事項として次の２つのテーマについて説明した。

- ①乗合バスの維持確保について
- ②交通不便地域

その結果、予定している第２回協議会（２５年３月予定）の前に「具体的に何を議論するのかについての共通認識を整理する」を目的に、フリーディスカッションを出来る場を設けることを決定した。

また、今後の進め方について協議会と並行に分科会を設置して議論することを提案し、了解された。

（３）路線バスの利用状況について

「飯能市の地域特性」及び「公共交通の現状」について説明した。

内容については了解された。基礎資料として重要であるため、議長から次回協議会における資料として活用していくことが指示された。

（３）アンケート実施について

市民ニーズ・バス利用者の要望等の把握に向けてアンケート調査票の内容を説明した。内容的には基本的に合意されたが、１０月１５日までに内容に関する意見及び追加質問事項等を事務局に連絡することとなった。

会議録（3）

発 言 者	発 言 内 容
事務局長	<p><開会></p> <p>ただいまから、第1回飯能市地域公共交通対策会議を開会させていただきます。はじめにご報告させていただきます。本協議会は原則公開でございます。また、本日は谷島委員、浅見委員、ご欠席とのことで谷島委員の代理としまして堀米様のご出席を賜っております。よろしくお願いたします。</p> <p>では、議事次第に沿いまして進めさせていただきます。まず、本協議会の委員の方々に沢辺市長より委嘱状をお渡しさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">（委嘱状の交付）</p> <p>ありがとうございます。続きまして、本協議会の会長でもあられます沢辺市長からごあいさつをいただきたいと存じます。</p>
市長	<p>飯能市地域公共交通対策協議会の開催にあたりまして、ひとことご挨拶申し上げます。</p> <p>本日、皆様方におかれましてはお忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。皆様には、ただ今委員としての委嘱状を交付いたしました。飯能市地域公共交通対策協議会の委員をお引き受けくださいましたことに対しまして、感謝申し上げます。</p> <p>国際興業バスの運行につきましては、ご心配をおかけしましたが、平成26年度以降につきましても運行を継続していただけることになりまして、国際興業様には感謝しております。</p> <p>また、協議会委員であります吉田先生をはじめ、関係者の皆様にはいろいろとご協力していただきましたことに感謝申し上げる次第であります。</p> <p>今回、この国際興業バスの問題を背景としまして、公共交通の維持確保が大変難しいと感じているところでございます。</p> <p>地方では利用者の減少からバスの維持確保が大変であるとのことでありますが、本市におきましても少子高齢化が進み、人口も減少傾向にありますので、公共交通の利用者は今後、さらに減少することが考えられます。</p> <p>公共交通を維持確保していくこと、また高齢者の移手段の確保については、本市におきましても大変重要な課題であります。</p> <p>この課題につきましては、市役所や事業者だけでなく市民のみなさまをはじめ</p>

事務局長	<p>めとする関係者とともに開かれた議論をする必要があると考えまして、この対策協議会を設置したところでございます。</p> <p>対策協議会では、皆様とともに本市の将来を見据えながら、本市の公共交通の維持確保やあり方について、協議をしていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>市長、ありがとうございました。続きまして経緯と設立の趣旨などについて、ご説明申し上げます。昨年6月、国際興業株式会社さんから市内の運行につきまして、撤退を具体的に検討するとの申し出がございました。申し出を受けまして、市でも担当を設置し、対応を検討してまいりました。本日、出席をいただいております福島大学の特任准教授であります吉田先生にもご相談をさせていただき、専門的な見地からのご助言をいただいたところでございます。</p> <p>国際興業さんとも協議を重ね、その結果、特段のご配慮・ご協力をいただき、今後も運行継続するとの方針転換をしていただいたということにつきましては皆さんご了解のところと思っております。</p> <p>今回の国際興業のバスの撤退問題で我々もいろいろ勉強させていただきました。その中で一番重要なことは何なのかというようなことを担当とも、また庁内でもいろいろな検討委員会等をつくりまして研究をし、やはり利用者の減少によりバスを維持していくことが大変であると、このことに尽きるのではないかという結果になったことでございます。この問題を契機にいたしまして、事業者やバス利用者、また行政機関が集まりまして、公共交通のあり方についてきちんとした協議をしていく必要があるという考えをもとに、市長を会長とさせていただきまして、この飯能市の地域公共交通対策協議会を設置させていただいたところでございます。</p> <p>設置に至る経緯については以上でございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
事務局	<p>続きまして、協議会の設置要綱についてご説明申し上げます。 (資料1「飯能市地域公共交通対策協議会要綱」に基づき説明した。)</p>
事務局長	<p>続きましてそれぞれの委員の方から、自己紹介をいただきたいと存じます。</p> <p>(各委員及び事務局自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。それでは本協議会設置要綱の第6条に基づき会長</p>

座長	<p>から座長のご指名をいただきたいと存じます。</p> <p>(沢辺会長より吉田 樹委員に座長の指名)</p> <p>ありがとうございました。それでは吉田先生には座長の席にお移りいただき、またひとことご挨拶いただき、吉田座長のご司会を持って議事を進行していただきたいと存じます。吉田先生、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>あらためまして今回の座長及び職務代理ということでご指名を頂戴しました福島大学の吉田でございます。先ほど自己紹介の時も申しましたが飯能市は非常に珍しい選択をしたということを申しました。私は関東地方で言いますと、秩父市さんのお手伝いをしています、そのほかですと栃木県の足利市さんのお手伝いをしております、ここは人口約15万5千人くらい。そこは昭和60年代にバスが全部撤退しました。事業所を残すこともできず、どうなったかという1日4往復の路線バスだけが200円均一でずっと走っていました。普段の通学にも使えない、買い物などショッピングセンターにも使えない、大きな病院に行くにも使えない。そのようにして約10年たったところ、旧中心街には1,000㎡くらいの大型店だけが1店舗のみ残った、という状態まで街が疲弊してしまったのです。そういう状況を目の当たりにしている中で、公共交通をどう変えていくかというお手伝いをしはじめた矢先に飯能市のお話をいただきました。そういう意味でいきますと、今回の飯能市と国際興業さんの選択というのは非常に前向きかつ有効な選択だった、と思っております。ただ一方で幅広く市民の皆さんにどう伝わっているか、もちろん国際興業さんの路線の無いところはたくさんあります。バスが走ってないところも当然多くあるわけで、そのなかで市内全体の公共交通をどうつくって、どう守って、どう育てていくか、「つくり・守り・育てる」というこの3本の柱をどうやって皆さんと考えていくか、というところが今回のこの協議会に与えられた使命ではないかと思っております。かなり多くの公募委員の方のご応募もございましたし、市民委員、利用者代表というところで多くの方のご参画もいただいています。堅苦しくなく色々な発言を自由にさせていただいて、少しでも前向きな議論をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の議事はその他を含めると4点ありますが、資料3からの説明をいただく前に、皆さまのお手元のところに国際興業さんからこれまで検討の経緯等について細かく記していただいている資料があると思っております。少し概略をご説明いただいたあと、資料3からの説明、議事に移りたいと思っております。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員	<p>それではお手元の資料、「弊社飯能営業所の運営につきまして」というのがございますが、平成 24 年 4 月 9 日と書いてありまして、両面印刷で全部で 3 枚になっているかと思います。</p> <p>これから協議会の趣旨等、先生の方からもご説明いただく部分があるかと思えますけれども、乗り合いバスの全国の共通傾向といたしましては、廃止、減便、値上げによるバスの魅力の低下、このような部分でさらなる利用者の減少につながっています。このような部分が出ておりますけれども、当社といたしましては今までも廃止や減便につきましては最小限にしてきたつもりでございます。また、値上げにつきましても平成 9 年以降 15 年間行わないということで、最大限努力はしてきているというところをご理解いただきたいと考えております。また、事業者サイドでの自助努力という部分で取り組みをしてきた部分もございます。例といたしましては名栗地区にも営業所がございますけれども、これを何とか維持するという含めて、名栗車庫を無人の車庫にするといったようなこと。また飯能の営業所につきましても、所長を池袋営業所と兼任するなどいたしまして、こういった部分でも人件費の削減を図ってきております。さらに車両の減価償却費といったような部分もかなり重たいところがあるのですが、ほかの営業所で使った車を使い回すことによって減価償却費をゼロに近い形にするなど、こういった部分も取り組んできたところでございます。</p> <p>また利便性の向上というところではパスモの導入というところで、少しでも利用しやすいバスということで取り組んできております。また飯能固有の観光というのもございます。観光シーズンになりますとたくさんのお客様が運行の予想に合わないような形で出ることがございますので、このような部分に合わせた大型バスが必要ということで走らせていくといったような部分がございます。</p> <p>また、駅への直行運行ということを実施しております。これは、どうしても乗り継ぎ運行という形になりますとそれだけ運賃が高くなってしまって皆さまにご迷惑をおかけしてしまう。このような部分を避けるという意味でも直行運行をしていく。また、名栗方面から駅へというようなニーズが多いということで、名栗方面から駅へ来る方向に合わせた始発終着のダイヤを維持してきております。また小学生の通学の足も非常に重要な部分ですけれども、その登校時間に合わせたダイヤの維持をしているところでございます。</p> <p>さらに今後行うことといたしまして、この秋から来年の春にかけてスタンプラリーを皆さまのご協力のもとに実施していきたいと考えております。スタンプラリーを行うことによって、地元に来ていただくお客様、それから地元の店舗にもお客様を増やす、我々バスの利用者も増やすということで、お互いにメ</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

リットがある取り組みができればと考えております。

また、新たなコスト削減策といたしましては、今まで外部から借りておりました自家用車、従業員の駐車場、ならびに待機するための部屋。このような部分も効率的な運用に見直すということでコストダウンに努め、新たに取り組んでいるところがございます。このような形でいろいろと取り組んできてはいるのですが、なかなかこれ以上やるといのが難しい部分もあります。これ以上のコスト削減等になりますと、また残留するのが難しいという話にならざるを得ないという部分もございますので、ご理解いただきたいと考えております。

少し後ろ向きな話をしてしまいましたけれども、むしろ前向きに弊社が考えていることといたしまして、自分たちだけではできない部分、皆さまにご協力いただくことによりまして取り組むことができるということで、若干ご提案という部分を申し上げたいと思います。

1つには、公共交通の重要性。これは幅広く知っていただく必要があります。学校の中での取り組みの中でもこのようなことを知っていただく教育を取り入れていただけたらというふうに思っております。また、ギャラリーバスと言いまして、沿線児童の描いた絵をバス車内に掲示するといったようなこともできるといいと考えております。また現在、買い物難民対策として、ショッピングセンターが独自に走らせているバス等がございますけれども、このような部分、路線バスとの関係を整理・統合などもいたしまして、よりよい形がめざせるのではと考えております。また観光客を増やすというのも非常に重要なことだと考えております。マスコミをどう使えばいいのかみたいなことも一緒に考えられればと考えております。また、パークアンドライドの検討や促進。さらに現在、さわらびの湯の駐車が無料になっているという部分もありますけれども、このような部分を今後どうしていくのがいいのかといったようなことも検討してほしいと考えています。また、高額定期購入者へ現在、市から補助していただいている部分がありますけれども、このような部分をアップしていただくとか、業者に対するその他の補助についても検討していただけるとありがたいというふうに考えています。

以上、弊社として取り組んできたこと、またこの場で検討できればというようなことを紹介させていただきました。ぜひこの場をお借りしましてよりいい形にできればと考えておりますので、ご理解いただければと思います。以上でございます。

座長

ありがとうございました。先ほど私が「つくる、守る、育てるという3つの要素がある」という話をしました。この「つくる」、路線を引っ張るという意味です。「守る」、路線を維持するという意味です。「育てる」というのは、利

	<p>用者をどう伸ばしていった改善していくかという意味です。この「つくる、守る、育てる」というところを今まで誰がやってきたかという、基本的にはほぼ事業者がやってきたという話です。今回、国際興業さんのいわゆる一連の撤退問題というのは、「つくる、守る、育てる」という3つの要素を、国際興業単体では飯能市の場合はやり切れない。黒字路線ばかりであればやり切れるかもしれないけれども、地方路線と同様にやり切ることができないからということで球が我々のところ、市民のところに投げられてきた。こういうことです。</p> <p>今、国際興業さんの例でお話をしていますけれども、この協議会は西武バスさん、イーグルバスさんも含めた形で構成されています。おそらく西武さんもイーグルさんも飯能市に限らず、いわば地方部のところの路線の維持に関しては、表面化をしないまでも、やはり「つくる、守る、育てる」というところについては、単独でやっていくところについてはかなり厳しい状態になり始めているのではないかという気がしています。この「つくる、守る、育てる」というのを、行政側でどう対応していけばいいか。あるいは市民の側、観光事業者さんとか、多様な主体で「つくる、守る、育てる」というのをどうやってつなぎ合わせていくことができるか。まさにそれを考える場というところが今回の協議会です。</p> <p>先ほど「沿線の児童の絵を飾る」とか、いろいろな「つくる、守る、育てる」、特に守り育てるといふところの策について少し具体例を出していただきましたけれども、飯能市の中で、この協議会の中で何をやっていこうか、どういう方法でやっていこうかというところは、おいおい議論を深めていきたいと思っています。ありがとうございました。</p> <p>それでは、資料3・4・5は一括でやります。この3・4・5一括で事務局からご説明いただいたあと、国際興業さんからのご報告を含めて一括で皆さんと議論してまいりたいと思っております。では、3・4・5の説明をお願いします。</p> <p>それでは議題1、協議会の趣旨と今後の進め方についてご説明申し上げます。</p> <p>(資料3「飯能市地域公共交通対策協議会の趣旨」、資料4「飯能市地域公共交通対策協議会の進め方」、資料5「平成24年度、25年度飯能市地域公共交通対策協議会スケジュール(案)」に基づき説明をした。)</p>
事務局	
座長	<p>ありがとうございました。資料3のところで「討議事項」というところが(1)と(2)に分かれています。先ほど言った3本柱「つくる、守る、育てる」というところで行くと、(1)はおそらく「守る」。路線をどう守っていくか、</p>

	<p>あるいはサービスをどう育てていくかという仕組みづくりのところでしょう。</p> <p>(2) のところが、今、公共交通というものが走っていない、そのところへどうつくっていくか。つくっていくという時に、従来のやり方は事業者がつくるか行政がつくるか、この選択肢しかなかったのだけれども、そうではなくてもっと地域に密着したようなつくり方というものがないのだろうか。そういうような受け皿を考えていきます、というような解釈だと思うのですが、事務局よろしいですか。</p>
事務局	はい、その通りです。
座長	<p>それでは資料3・4・5、それと先ほどの国際興業さんからのご報告を含めて皆さんからご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>「つくる、守る、育てる」というスローガンをおっしゃっていますが、何かわかるようで、わからない。具体的に言葉だけが「つくる、守る、育てる」ということで、具体的に中身が今、座長がお話になりましたけれども、スローガンだけが飛んでいる気がするんです。具体的に何もなくて、「これはつくる、これは守る、これは育てる」というのではなく、「つくるということ、守るということ、育てるはということ」というのがないと議論にならないので、座長がお考えになる「つくる、守る、育てる」というのを資料としてはっきりお出しただいて、みんなで共通の認識がないとスローガンだけ、言葉だけが飛んでいるような感じがしますがいかがでしょうか。</p>
座長	<p>それでは皆さんが整理する機会をつくりましょう。「路線を守る、育てるというのは資料3(1)のところにある」というふうにお話ししました。「守る」というところはいろいろな方法があります。たとえば今回、飯能市が国際興業に税金を投入した。これも「守る」という1つの体系です、考え方です。それだけではなくて、青森県の八戸市だと運賃のほかに地元の町内会が自分たちの家の前を走っている路線を守るために募金を集めている。基金を町内会がつくっているというケースも、「守る」としての形態だと思います。</p> <p>それから「育てる」ということは、利用促進をどうするかという話です。車内で「いろいろな子どもたちの絵を飾る」というところがありましたけれども、八戸市で実践をしています。なぜそんなことをやっているかという、子どもたちの絵が車内に飾られた時に、小学校や回覧板のところで「今、バスってこういう形で使われているんです」「こういうことを市が考えてやっているんです」「バス会社はこうなんです」というところがわかりやすく伝わってくる。</p>

それから「育てる」という時にもう1つ大事になってくるというのは、地元の人たちにいかに知っていただくかということも大事なことです。茨城県の五霞町では、今度11月3日にふれあいまつりという地元の祭りがありますが、そこで地域公共交通会議とか、下部組織のワークショップが、その中で地域の公共交通をどう考えていくかということところを1つのお店を開いて、そこに来た住民の方と1対1でも何でもいいから、喧々諤々の議論を朝から晩までやっぺいこうというような、そういうワークショップのようなものをやったりもします。それも「育てる」の1つです。

それから「つくる」というところ。資料3(2)のところでありましたけれども、これは地元の自治会自体がバスを走らせるというようなケースもたくさんあります。バス会社に委託するというケースもあれば、そうではないケースもある。必要と思える移動手段の確保ということところを行政や事業者任せに任せただけではなくて、自分たちで力と金を合わせながら、でも自分たちだけでできないところを行政や事業者が補完しながらやっぺいしていくという例がたくさんあります。大事なことというのは、私が考えているそういうビジョンをそのままコピーして実践するのではないということです。次回、それを実際に写真付きでお見せします。次回3月とは言わずに、1回、早いうちにフリーにディスカッションできる時間をつくりたいと思っています。

私も今のご発言の前に言おうとしたのですが、資料5があります。この資料5の1回目から5回目の体制だと全然「つくり、守り、育てる」の議論ができないんです。アンケートをやった。アンケートのところから課題が出てきた。基本計画をまとめる。具体的、専門的などところは分科会で処理できるとしても、「どういふ利用促進をやっぺいしていけばいいのか」とかいうことは、市民の皆さんの力がないとできないのです。私は宮城県民で福島県が勤務地ですから、埼玉県民でもないし、飯能市民でもないわけです。だから皆さんの力を結集するためには、もう少しこのスケジュールを1回目から5回目の間のところ、みんなでそういうことを考えられるような機会、先ほど勉強会の話をおし上げましたけれども、そんな機会をつくっぺいできないと、なかなか「つくり、守り、育てる」というところがみんなでお共有できないのではないかと気がします。

おし上げたいのは、「つくり、守り、育てる」といふのをみんなでお共有する場といふものをぜひこの会議の中で一緒につくっぺいしよう、ということ。非常にいいご指摘でした。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

委員

「いろいろな取組みができるだろう」といふことでお話がありましたけれども、今、「つくり、守り、育てる」といふのとは逆に、この地域がなんで壊さ

	<p>れて、それから見捨てられて無関心になったのかという、「逆戻り」するという検討が問題の解決に向けていいのではないかという感じがします。本当にいろいろなことを話し合える場があれば、いろいろなことが見えてくるのではないかと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。逆の議論。「つくり、守り、育てる」という議論を逆流したい。壊されて、守れなくて、育てられなかったというところが背景にあるわけですから、そういうところの現実がなぜこうなっているのかというところをやっぱり議論していくというところの場は大切です。事務局で検討していただきたいのは、今回の分科会とこの会議の場だけでなく、皆さんを巻き込んで、もう少しフリーな形で議論できるような場というものをつくれないうところを検討してください。そのほか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私も名栗に住んでおりますので名栗のことしかわからないのですけれども、県道の道路の拡幅もされまして、たいへん名栗に関しては道路もいいです。そういう面では駅までの時間の短縮とか利便性は高まっていると思うのですが、逆にそれだけ人がバスを使わなくなってしまったということで、どういうふうにしたらいいのか。逆に本当は昔に比べると早く駅までも行けるのに使われなくなってしまったということは非常に残念です。</p> <p>それとさわらびの湯の駐車場です。さわらびの湯だけではなく、やませみさんがありますけれども、従業員が来た時には山登りの駐車場でいっぱいと言うのです。どうにかしてくれないかというふうに言われたこともあるのですけれども、その時には「あそこに公衆トイレがある関係でここを封鎖することはできない」と市からは回答があったと聞いています。トイレを使わせないというわけではないので、できるのではないかなと思うのです。</p>
座長	<p>ありがとうございます。2番目のさわらびの湯とやませみの駐車場の話です。この辺、情報があれば事務局からお答えできる範囲でいいですか。</p>
事務局長	<p>さわらびの湯の駐車場の問題につきましては、国際興業さんだけでなく、あの使い勝手をもっと幅広く、ただ単に山登りに来た人たちだけではなく、もっと有効に使った方がいいのではないかというようなご意見は出ております。今、指定管理をお願いしていますが、その辺も課題として挙がっております。少し時間をいただきまして、有効に使うような手段を今考えようという段階でありますので、しばらくお待ちをいただければと思っております。</p>

座長	<p>ありがとうございました。その活用策については先ほど国際興業さんから提案がありましたし、今、両方から提案が出てきているところです。どういう形でやれるのかということもあるでしょうから、そこはまたフリーにディスカッションができる機会にちょっと議論を交わしていければと思います。</p> <p>それから、昔に比べて道路が整備されて便利になったのに使わない。バスがなぜ使われないかという、3つあると思うのです。1つが、調べたけれど使い道がなかったから使えない。もう1つが、そもそも調べ方がわからないから使わない。たとえば飯能市でも多くは国際興業さんの路線かもしれませんが、西武バスさん、イーグルバスさんの路線だってあるわけです。初めて来訪した人は、ここに走っている路線は西武鉄道ですから西武のバスがあるという印象はあるのですが、まさか東京にある国際興業がここに路線があると知らない人もいます。だから、路線バスの事業者がわからなければ調べようがないのです。</p> <p>さらに調べてもわからない。調べ方もわからないバスというのは、はじめから使う選択肢がない。実際にある地域の公共交通会議でこういう話があったのです。「バスに乗るのが恥ずかしい」と。なぜ恥ずかしいのか。学校に通わせる時にバスに乗る。高校生は運転免許がないからバスを使います。ところが、ある人のお宅はバスで通っている。隣のお宅の場合には学校まで車で送ってくれる。そうすると、学校で車を送ってくれるグループとバスで送ってくれるグループとがよくない関係になってしまう。結局、みんな車で送り迎えをしてもらうようになる。そうするとバスがいつそう使われなくなってくる。バスを使わされる家庭が恥ずかしい家庭だという。そういう議論が実際にあるのです。実際、福島県でも新潟県でそういう話があったのです。埼玉県ではもしかしたら信じられないかもしれませんが、それだけ逆に、バスというのは選択肢のところから外されている。「使う」というところ自体が変わっている。そういうふうに使われてしまっているという要因は実際にあると思います。</p> <p>だから、どうやって市民の皆さん、あるいは観光客の皆さんにバスを使っただく、鉄道を使っただく。それが当たり前になったら来るのか。というところをどうつくっていくのか。これがやはり非常に大事な議論になるのではないかと思います。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今、「つくる、守る、育てる」と言われて、「つくる」というのは、もうすでに路線が入っている、業者が入っているところは関係なく、新たにないところにつくるということを言われているような感じがするのです。個人的な懸念としては、委員に応募した時はもう撤退するということが決まっていた状態で応</p>

	<p>募したものですから、存続するという事は考えていなかったのです。委員になったからには国際興業さんに代わる何らかの市民の力、市役所の力による別の運営部隊を立ち上げなくてはいけないのだと思ってすごく真剣に考えたのです。先ほどの開かれた喧々諤々の話し合いをする場というのはたしかに必要とおもいますが、私はここでするのかなと思っていました。また別の機会をつくるという感じで、ここではどんなことを話し合うのか教えてください。</p>
座長	<p>別にこの場でやってもいいんです。要するに、この机の配置がダメなのです、喧々諤々の議論には。真ん中で机を合わせて、1枚の紙でもいいし黒板でもいいですから、そういうところで話し合っていくというような形の体制をつくっていくことも必要です。実際、茨城県の五霞町ではそうだったのです。どういうことかと言うと、こういう形で会議が設定されていた。ところが意見がほとんど出てこない。それでどうしたかと言うと、ある時に会議の途中の案件のところからみんなでひとつの机を囲み、議論を交わし始めて1つのものをみんなですべてまとめ上げた。というプロセスを経たら、次の会議からはこういう口の字型の構成であってもみんなから意見がたくさん出てくるようになった。それまでは協議会は30分で終わっていたのです。報告事項だけで。ところがそれをやってから2時間半ぐらいかかっているのです。今日はまだ初めですから、皆さんの顔合わせも初めてだし、こういう会議自体を飯能市でつくるということもたぶん公共交通に関してはまったく初めてでしょうから、どういうふうに進めていけばいいのか、事務局も含めて手探りのはずです。私もいろいろところで公共交通の会議をやっていますけれども、皆さんとお会いしたのは今日が初めてです。だから、どういうふうな形でやればいいのかというところは、実はまだ決めかねているところがあります。少しでも皆さんから意見が出やすいような仕組みにこの会議を持っていけるのであれば、別に新しい場をつくるような必要はないわけです。分科会をつくる必要はまったくないわけですから、どういうやり方がいいかを含めて皆さんからご意見があれば伺いたいと思っています。</p> <p>それから「つくる」というところに関してけれど、事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>「つくる」ということに関しては、交通空白地が特に中心になると考えております。先ほどもご説明しました、行政に要望があって行政がやるというような流れが多々あるような事例があります。そうではなく、つくる上でも現状を把握して、現状を分析して、地域の方と地域の状況に合ったものをつくらなければいけない。つくることだけを目的とするのではなくて、それまでの過程を</p>

座長	<p>重要視しておるところです。</p> <p>たとえば「こんなところにバスを通してほしい」とか、「こんなところで移動で困っている」ということをどこに上げてきたか。たぶん議会の中で出てきているはずなのです。あとは市民生活部のところに陳情が上がってくる、要望が上がってくるぐらいだったはずなのです。あるいは、バス会社とかタクシー会社に直接要望が上がってくるというところもあったのかもしれませんが。でも要望が上がってきただけで、じゃあそれが具体的にどうやって市の中で議論されているのか。本当にそれが必要で税金を投じる必要があるのかというところを考えるとこがなかったのです。だからこの会議の場というのは、それを考えていく場だと私は思っているのです。つまり、本当に市民の人たちが必要としているサービスに対して、本当に税金を投入してやっていくことがいいのかどうか。それを踏まえていくところが非常に大事になってくると思うのです。</p> <p>逆に言うと、「こういう体制で仕組みができる」という受け皿があれば、地域の人たちも、あるいは事業者であってもいろいろなトライアルがやりやすいはずなのです。何かそういうようなものをつくってあげればと思います。ただ、まだ具体的にどんなことをやればいいのか、たぶん皆さんもおわかりにならないはずだと思うのです。だから近いうちにそういうのを皆さんと共有できる機会をつくって、そこでまた議論していきましょう。いかがですか。</p>
委員	<p>今、税金を投入して国際興業さんに存続していただくというのを初めて聞いたのです。未だに税金を投入にしても大きなバスに1人しか乗っていないのを目撃している状態です。ありがたいことだけれども、ちょっともったいないなというのがあります。そういうことをどうしたらいいかということをお皆さん何か意見を出して行ってほしい。ワークショップみたいなことが必要ではないかなと思うのです。</p>
座長	<p>これはたいへん大事な素朴な疑問です。なぜ大きな車両をわざわざあてがわなければならないのか。先ほど観光客とか、昼間の買い物等とかありましたけれど、補足いただけますか。</p>
委員	<p>補足させていただきますと、おそらく大型バスで1人というのは、市営住宅方面のことかと思うのです。これだけ見ると「もっと小さなバスでもいいのではないか」と思われるかもしれませんが。距離も短いですし、1日の運用をバス1台、市営住宅線専用にあてがうほどのボリュームもないのです。実態といたしまして、ほかのところへ行ったバスが市営住宅線を1本入ります。またほか</p>

	<p>から来たバスが市営住宅線に入りますといったような形で、どうすれば市営住宅線の路線を1日の中で効率的に運用できるかということを考えながらやっているわけです。専用のバスで市営住宅線だけをやっているのではなく、路線全体の中で「このバスを名栗の方へ行って帰ってきたばかりだけれども、このあと市営住宅線に入れよう」とか。全体の中でどうすれば一番効率的な形でできるかということでやっているのです。市営住宅のためだけに1台のバスを用意するとなれば小さなバスでもいいのかもしれないですけど、全体の中で効率的な運用をしているがために大きなバスがたまたま入っているとお考えいただければと思います。</p> <p>小さなバスにするとそれだけコストが下げられるのではないかと見えるのですが、バスの車両代で言いますとほかの地区で使ったバス、古くなったバスを使っています。よって、新たなコストというのはかかっていないのです。また大きなバスであっても小さなバスであっても、コストは変わりません。さらに燃費が違うのではないかとと思われるかもしれませんが、大きなバスでも、小さなバスでもそんなに大きくは変わらないのです。ワゴンタイプとなればまた話は別かもしれませんが、大型か中型かぐらいであればそんなに燃費が変わらないということ、市営住宅線について言いますと距離が非常に短いですから、燃費の効果というのはそんなには大きくないということがあります。そのようなことからトータルな視点で考えた時に、ほかの路線もすべて含めた中で市営住宅線という位置づけで大きなバスを運用するのが一番いいという判断でやっているということでご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>理解はできますけれども、ちょっと問題があると思います。市営住宅のところの路線だけがそうなんだと思うのです。もしそうであれば、そこだけは撤退した方がいいかなという気がします。</p>
委員	<p>撤退は、困るのではないですか。</p>
委員	<p>困ります。困りますけれど、そこには違うシステムを考える必要がある。マイカーを1台出すとか、何かできないかと思うのです。</p>
委員	<p>我々の責務といたしまして、飯能市との約束事でもあるのですけれども、現在の路線バスも維持することを前提で考えております。そうする中で全体の中でどうすればいいのかということ、大型バスの回り運用で行うのが一番コスト的にも見合うという判断をしているところです。</p>

座長	<p>栃木県の足利市が「バス路線が廃止された。そのあとに市営バスがやった」とお話ししました。市営バスも実は大型車両を使っていたんです。ところが、ある路線でとことん人が乗らない。1便あたり平均3～4人もいないからその路線を切り離してワゴンにしたのです。ところが、ショッピングモールに乗り入れさせたのですけれど、運悪くお客さんが乗ってしまって乗り切れなくなったのです。2番目の車両を走らせたなら、運転手さんが2人いたのでコスト高になり、またバスに戻すというような議論を今、実際に始めています。車両の選択というのは、路線の組み方によっても「人が全然乗らない」というのもあれば、「けっこう乗る」という時間帯もあるし、車両の選択は難しいのです。</p> <p>飯能市で一番課題になってくるのは、要するにどこの路線を、明確に「ここはたくさん乗る路線だからそれなりに本数がたくさんあって乗りやすい」という路線、「全然、昼間お客さんを見かけないけれども本数はある」という路線、「昼間にあまりお客さんが乗っていないのではないか」というような疑問が出てくる路線があることです。実際には飯能市でどういう形でバスが使われているのかというのは、今日、事務局で資料を用意いただいていたはずなので、ちょっと資料6を見ていきながら今の議論を深めていきましょう。では資料6の説明を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして議題2、「路線バス利用状況について」をご説明いたします。 (資料6「飯能市における地域公共交通の現状把握」に基づき説明した。</p>
座長	<p>今、かなり長時間にわたってここの資料6の報告がありました。かいつまんでいくと、1日7,000人が市内ではバスを利用しています。それなりに時間帯によってはどの路線とも多く乗っている時間帯があるのですが、たとえばお昼の時間帯であるとか、あるいは路線の末端、始発に近いようなところではあまり乗っていないように見えます。あるいは観光客がかなり休日の場合には使っている路線が特徴的にあります、といったようなところを中心に説明をいただきました。今いただいたご説明に関して何かご質問はありますか。</p> <p>この資料は、今日だけということではなくて、今後皆さんと検討していく時に、今日出てきているような数字であるとか、あるいはこういう地図であるというところはたびたび出てまいります。そのところでまたご質問いただければよろしいかと思えますし、一方で今は細かいところまで説明が行き届いていないところもあります。具体的なところをピックアップしていただいて、もう1回、皆さんとともに復習させていただきたいと思っています。</p> <p>今日、実はおはかりする残りの30分弱ですけれども、「調査の実施」というところです。「次回、勉強会を含めて皆さんと議論していく会をつくります」</p>

	<p>というなお話をしました。その持ち方については事務局に持ち帰らせていただきたいと思っています。一方で広くバス利用者の皆さんから、あるいは市民の皆さんから公共交通に関する意向、あるいは移動に関する課題のところについてお伺いしたいということを今、考えております。それが資料7の「アンケート調査の実施について」というところかと思います。簡潔にご説明をお願いできればと思います。</p>
事務局	<p>では議案第3号、「アンケート調査の実際について」ご説明いたします。 (資料7「アンケートの実施について」に基づき説明した。)</p>
座長	<p>ありがとうございました。2つの種類、「市民意識調査」と「バス利用者のインタビュー調査」という2つの調査を行うというところの説明があったかと思えますけれども、どちらからでも結構です。皆さん、いかがでしょうか。素朴な疑問でもちよっとお出しただいて、あとでまたそれを事務局で期限を設けて整理いただき、また第2案を何らかの形で皆さんにご披露いただく機会をつくろうと考えておりますけれども、いかがですか。</p> <p>皆さんから出る前に、「世帯主用」というところをちよっとご覧いただきたいと思います。「質問5」ですが、①は「どこに行っていますか」という利用交通手段の話で、②はその利用頻度の話ですからたぶん答えられると思うのです。③がかなり難しいかなという気がするのです。あと、そもそもこのフォーマットが答えにくい。読み込むのに時間がかかります。それから「Q5の③」、「10年後のあなたの生活が変わりますか？」と言われても、自分自身のたとえば「体力が10年後落ちるからちよっとお出かけに不安だ」とか、「まあ10年後だったら大丈夫だ」というぐらいの判断だったらもしかしたら皆さんでできるかもしれません。ところが10年後の移動手段の、そもそもタクシーを使うか、鉄道を使うかという利用手段が変わるところまで、どこまで皆さんが答えられるのか。その辺、いかがでしょうか。</p>
事務局長	<p>ただいまの質問に関しまして、コンサルから答弁をさせていただきます。</p>
日本交通計画協会	<p>それではQ5のところの「移動のところについて」の質問でございます。このアンケート自体は、「その社会状況がこれからどう変わって、その時にどういようなことを考えなければいけないかということを考える必要がある」というふうに理解しました。食料品について、今は自転車で行っているが、10年後、将来的にそれがそのまま続いているのだろうか。たぶんわからないのではないかと思います。この質問は、「将来の移動に対して不安を抱えている」</p>

	<p>という人が多いのか、少ないのか、いらっしゃるのか、いらっしゃらないのか。その辺を明らかにしたいと思いました。この質問自体に対する答えというのを統計的に見た時に、たとえば「30%の人が将来的不安を持っているか」、そういった数字的なものを出すのではなくて、答えてくれた方の多くは将来もしかしたら変わるようなこと、「今、車に乗っていても将来は乗りたくない」というようなことが、もしかしたら思っておられる方がいらっしゃるかもしれない。というような、そういった今抱えている問題点が皆さんお持ちなのかどうかも含めて少し聞いてみたいというようなことを考えました。</p>
事務局	<p>事務局では、こちら10年後を想定するということにつきまして、やはり「将来について不安を抱えているか、抱えていないか」ということについてまずお聞きしたいというのが、思いとしてございます。今現在の交通手段、たとえばバスであれ電車であれというものが、将来変わる可能性が、たとえば体力的なものとかで不安を抱えているということであれば、公共交通をどうしていくかというヒントを得るためにも把握しておく必要があると考えております。</p>
座長	<p>「10年後のことを聞くな」と申し上げているのではなくて、聞き方です。選択肢のつくり方というところが、要するに「市民の皆さんに広く答えて、有効な分析をするのに適当かどうか」というところに疑問があったから申し上げたのです。ここは工夫しましょう。そのほか、皆さんから。</p>
委員	<p>公共交通ですけれども、Q8、9の「タクシーと自動車利用」。自分でやってみて、利用頻度「利用しない」の場合は月に1日以下で付けるのです。そして次に「何に利用されていますか」というふうなことだと、どこに答えればいいのかというのがあります。質問が来ると思いますから、8・9について選択肢をお考えいただければと思います。</p> <p>2つ目です。「路線バス利用者アンケート」はインタビュー形式でやるわけです。通勤している私としては、そんなのをやられたら大変だと思います。バスを待っている時だったらまだわかるのですけれども、その辺をどのように考えられているのかと思います。</p>
事務局	<p>まず最初のご質問についてでございますが、ご指摘につきましてはありがとうございます。検討させていただきます。</p> <p>続いて、バス利用者アンケートでございます。特にインタビューを行う場所を飯能駅北口・南口を考えております。駅ではかなり長時間、行列になって待っているというシーンが多く見られます。その時にインタビューさせていただ</p>

<p>座長</p>	<p>ければと考えているところでございます。</p> <p>ありがとうございました。私も三鷹駅北口で武蔵野市でやった時も、夕方を中心にお待ちいただいている、バス停で並んでいる方を中心にアンケートをしていますから、そのやり方でいいのではという気がします。</p> <p>タクシー利用者、自動車利用にしても、この選択肢を答えたら次にどれを答えればいいのかと。それぞれ下に行くのですけれども、「選択肢がない」といった場合に、「どれを答えていいのかわからない」という疑問があるところは、たぶんほかにも多々ある気がするのです。選択肢の誘導というところをわかりやすく表現していただいた方がいい、というところが付け加えです。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートの中身については特段異論はないのですけれども、実施するにあたってのお願いというところなんです。どうしてもアンケートを取りますと、出した答えが「実現するのではないか」と期待してしまうものなのです。やはり過度に期待を持たせてしまうといけないというふうに考えております。どうしても実施できることとできないこと、実施するにしても費用がかかる場合等もあります。場合によっては市の財政負担をお願いせざるを得ないような状況になる場合もあります。その辺りを実施するにあたってはあらかじめご承知いただいた上で実施いただければと考えております。</p>
<p>座長</p>	<p>事務局からありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>あくまでこちらのアンケート調査につきましては、「意向調査である」あるいは「利用状況の調査である」ということで考えておりますので、そこから導かれた答えがどうなるかによって「実施する」「実施しない」は考えていくべきだと思っております。今この時点で「すべて実施できます」というふうにお答えすることは事務局としてもできないと思っております。</p> <p>補足しますと、このアンケートの内容につきましては、聞いたからといって実施するということが前提ではありません。あくまでも現状を把握して、市民のニーズ、どのようなことを考えているかということをもとに把握することが重要だと考えております。それを踏まえて、今後、方針をまとめる時の基礎資料にすることがこのアンケートの目的でございます。「結果＝実施」という考えではないということをご理解いただきたいと思います。</p>

事務局長	<p>1 ページ目に市長のメッセージを入れます。そこにアンケートの趣旨が入りますのでご理解いただけるとと思います。</p>
座長	<p>1 ページのところにも「このアンケートの目的」と書いてありますけれども、大事なことというのは、「なぜ使っていただいているのか」、「なぜ使っていただけないのか」というところの要因がどこにあるのかというところを探ることだと思います。先ほど「つくる、守る、育てる」という話をした時に、「いや、そうならない現状をつくり出した要因というところから考えていくのが大事なのではないか」というご発言をいただいたところですが、それが探る要因に使えるわけです。具体的にどこのサービスを見直していくのかというところはお金のかかることだし、事業者が考えていかなければならないところもあるから、すぐに全部反映できるわけではないかもしれない。「ちょっとの工夫でやれるだろう」とか、「ここは実際にバスを走らせているけれど、伝わっていない」というところがこの中から出てきたとしたらいいのです。お金を投資することなくすぐやれるかもしれないのですから。それを導き出すためにこういうことを聞いているはずなので、このアンケートの扱い方ということも、どう料理していくかということを含めて考えていただけるといいという気がしています。ありがとうございました。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>こういうアンケートだと回収率というのが30%というようなことだったのですが、本日は委員の方も実際に自治会も動いていただいているので、ご協力いただいて、目標としては50%。そして実質が40%か30%とかいう形で、ちょっと気運を高めていただくというのも必要です。飯能市は「公共交通って何なの？」と今、多くの皆さんが思っていただけの状況かなというふうに思っております。なるべく意見は多くいただくような工夫ができればなというふうに思っております。</p>
座長	<p>ありがとうございました。そこは事務局と、それから今日お集まりの皆さんを含めてご協力いただければと思います。そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>では、おおむね16時になってしまいましたので、いったんここで、このご意見のところは打ち切りにさせていただきたいと思います。</p> <p>アンケートのところに関して議論する時間が足りなかったということと、「ここはこういうふうに表現したらいい」というところ、また皆さん持ち帰ってお考えのところがつぶん出てくるかと思えます。一定期間お時間を頂戴して、事務局に意見を寄せていただく時間を設定したいというふうに考えます。</p>

事務局	<p>事務局ではいつぐらいまでにしたいのでしょうか。</p> <p>アンケート調査につきましては10月下旬に発送したいと考えております。10月15日ぐらいまでにご意見をいただければと思います。</p>
座長	<p>わかりました。10月15日までにお気になった点、あるいは「ここは答えにくい」という点でも何でも結構でございますので、事務局に寄せてください。その上で、事務局と協議の上、アンケートの修正をしていきます。出来上がりましたら、皆さんに、配信いただければというふうに思います。</p> <p>今日のまとめという項ですけれども、アンケートのところについては今の取り扱いとさせていただきたいと思っております。持ち帰って気になった点、何でも結構です。事業者の皆さんも「ここは聞いてくれ」と。イーグルバスさんの場合、いろいろと調査、実践もたぶんおありだと思いますので、「これ聞いたら楽しいです」とか「これ聞いたらよくなりました」という意見をぜひ聞きたいと個人的には思っています。</p> <p>そして、冒頭いただいたこの会、公共交通の計画をこれから1カ年半かけて私たちはつくっていくこととなりますけれども、どういう方向をめざしていけばいいのかというところを、私は「つくる、守る、育てる」という言い方で単純化してしまいました。「共有する場をつくりましょう」、「皆さんからいろいろ広く意見をもらうような会をつくりましょう」というような話をしました。冒頭の予定では次の会議がもう3月なんです。そうするとずいぶん時間が経っているような気がしますので、どこか1回、お集まりいただける方にお集まりいただいて、そういう形のものが議論できる場が設定できればなというふうに個人的に考えています。事務局で少し整理いただいて、皆さんにご案内申し上げますので、次回はそういう形で「どういう形のものなの」「今まででどういう状態になってきたの」というところが語れるような場というところを設けさせていただきたいと考えています。</p> <p>そのほか、今日ここを言い足りないとか、ここは言っておきたいというところが皆さんあればお出しいただきたいと思います。</p>
委員	<p>国際興業さんと協定書を結んだということですがけれども、具体的にどういう形で協定書を結ばれたのか。わからないですけれども、どれだけ私たち市民の税金が。そういうことがわかっていかないと公募で来た意味もないですので、その辺を教えていただければ幸いです。</p>
座長	<p>これはどうでしょうか。次回、皆さんで議論する時にまとめたものでいい</p>

<p>事務局長</p>	<p>ですか。</p> <p>資料をお出ししたいと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>やはり市民の皆さんに広く今回の状況というのが伝わっていないという印象を今日の会議でも受けたところでもあります。何らかの形で広く市民の皆さんにいろいろと交通に関して知っていただける機会をつくれれば、というところも考えております。そのほか、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>この議論は継続的にやっていくのですが、公共交通と言えば、鉄道の関係もいつか機会があったらご参加をいただいて、そのまた連携でひとつの方策がないものかなど。次回にというわけでもないですが、ある程度の機会があったら鉄道関係者の方にも参加いただければまた有効な議論になるというふうに思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。秩父で今、鉄道事業者の方にも入っていただいて議論していて、実際に動きもあります。折に触れて鉄道事業者の方とも議論できる機会ができればというところも考えています。ありがとうございました。そのほか、いかがでしょう。</p> <p>それでは今日の会はこれで閉じさせていただきたいと思います。進行を事務局にお返しします。どうもありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>一点、事務局から報告させていただきます。先ほどアンケートの調査を実施するというお話をさせていただきましたところですが、アンケートを補完する意味で、地区懇話会を事務局で考えております。年が明けて、アンケート調査の結果等が出ましたら、広く意見を聞くために地区懇話会を事務局の方で予定しております。よろしく申し上げます。</p>
<p>事務局長</p>	<p>長時間にわたりまして本当に活発なご議論ありがとうございました。本当に何を感じたかと言いますと、やはり座長がおっしゃられたように、我々は発信をしてきたつもりですけれども、まだまだ十分な発信ができていないということを実感しております。先ほど、この議論だけでは十分ではないということ。また別の機会を設けさせていただけるかどうか。座長は事務局ともすり合わせていないというお話でしたが、我々とするとは非常にありがたいお話でありまして、いろいろな方が熱心に議論して、やはり飯能市に合ったそれなり</p>

のものをつくるということは大前提ではなかろうかと思っております。ぜひこちらからもお願いをしたいと思えます。

報告をさせていただきます。今日の議論をずっとお聞きしますと、飯能市民がこの大きな問題に対してさほど関心がないのではないかというような感じの受け止められ方が多いような感じがします。しかしながらこの国際興業の撤退を機に、名栗地区ではすでに「名栗地区活性化検討会」というものができております。どういう場かといいますと、自治会、まちづくり協議会、観光協会、または事業者、そういう方が一堂に会し、また、我々も出ていきます。5月から十数回私も会議に出ています。それには西武鉄道、国際興業さんも出ておられまして、活発にどうしたらこの火を消さないで地域の活性化ができるかというような議論を地区で行っております。10月28日には国際興業バスを使ってピストン釣りや竹の水鉄砲を作りたいということで、所沢や豊島区の小学校にこれを配って、かなり反響もいいというようなことを聞いております。我々の発信不足で、なかなかうまく情報発信できなかったのですが、地域では「本当にこの火をなんとか消さないで」というような動きもあります。協議会の皆さんも今後引き続きご協力をいただきますことをお願いいたしまして、閉会とさせていただきます。長時間にわたりまして本日はありがとうございました。